平成 30 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「実践ケア賞」

ODAWARA 若年認知症サポートプロジェクト

【設立年月日】2013 年 12 月

【授賞理由】

人とつながるという基本的な喜びが認知症のある人の尊厳ある生活を作り上げることを世に示しました。若年性認知症への社会的関心が低かった時代から今日に至るまで継続されさまざまな交流活動が生み出した「つながり」は多くの者の希望の灯となっています。

【団体概要】

介護を必要とする方が「住み慣れた環境で暮らす」をテーマに介護や福祉などの不安や困りごとを気軽に話すことのできる居場所をつくる。

参加者：当事者・その家族・介護関係者・医療関係者（PSW・看護師等）・行政等

活動地域：神奈川県小田原市（他地域の方でも参加は可能）

対象者：若年認知症当事者や家族。活動に参加したいと希望する介護家族や当事者。活動を楽しもうとする方であれば、どなたでも参加は自由。

【事業活動】

- ・毎月 1 回（第 2 日曜日）にテーマに沿った昼食を皆で工夫して作り、食べ、片付けながら他愛のない会話や介護の話を気軽に気の合った仲間と行い、日ごろの困りごとや不安に経験者からアドバイスを受けている。当事者も「認知症当事者」というバリアから解放され、会の仕事の一端を担い自由な時間を過ごしている。
- ・年 1 回の旅行
- ・他家族会との交流会
- ・国際医療福祉大学の学祭への出展および卓球部との卓球大会への参加等

【業績等】

月に 1 回当事者 7~8 人を含め、家族やサポーター（医療、福祉、介護者）が集まり、皆で食事を作ったり、体を動かしたりしている。この「認知症カフェ」スタイルの地域に根ざした集まりには制約がないため、誰でも気軽に参加ができる。認知症の方を介護される家族にとって、同じ立場で話し合い、情報交換ができる貴重な場所である。また、当事者は、できない事はさりげなくサポートされながらも、一緒に皆で楽しむ貴重な「居場所」となっている。「たとえ認知症になっても楽しむ事を忘れない」をモットーに、日帰りの小旅行や旅行では北海道まで足を伸ばしている。介護する側も介護される側も、同じ立場の「人」として思いやり、協力をしながら信頼関係を深めている。年齢も立場も違う人たちが集まり一緒に楽しむ事が、地

域で長く生活していくために重要だと考え、参加している当事者、家族、サポーターにとっても大切な居場所になっている。

活動に参加する事により、孤立しがちな介護家族が「自分だけが介護に苦しんでいるのではない」「こんなふうに工夫すれば良いのだ」と気づき、気持ちが楽になる事で前向きに介護を続ける事ができるようになっている。他者との交流を拒否していた当事者が参加する事により「楽しさ」に興味をもち外出（デイサービス利用）に結びついた。介護の終わった家族も参加し続け、介護家族のアドバイザー的な役割を担い、新しい参加者たちの気持ちに寄り添うことを早い段階から可能とさせている。当事者の生き生きとした姿を目の当たりにする事により、専門職がもっていた「認知症」への意識も変化するきっかけとなった。バス旅行や北海道旅行を通して「認知症であってもやりたい事をあきらめる必要はない」「楽しい事を普通に楽しんで良い」と感じ、当事者と支援者という関係ではなく、お互いの足りない部分を補い合うパートナーとして関係を築いている。